

1. 医学部におけるスポーツ医学教育の実際

藤谷博人*

我が国の医学部におけるスポーツ医学教育システムについては、これまでほとんど検証されておらず各医学部における現状は十分に把握されていない。

今回、日本臨床スポーツ医学会教育研修委員会が2024年春に実施した、全国医学部における「スポーツ医学教育の実態に関するアンケート」(A)の調査結果についてその内容を分析した。

また実際のスポーツ医学教育の具体例として、筆者が所属する聖マリアンナ医科大学におけるスポーツ医学教育 (B) の内容を紹介する。

●A, 全国医学部における「スポーツ医学教育の実態に関するアンケート」

2024年春、全国の医学部(医科大学)に対し、日本臨床スポーツ医学会教育研修委員会(大森豪委員長、片寄正樹委員、津田英一委員、山口奈美委員)より、上記アンケート調査が行われ、82校中61校より回答を得た(回収率:74.4%。お忙しい中ご協力いただきました大学様には、この場を借りて感謝申し上げます)。その結果の一部を下記に示す。

1, 「スポーツ医学教育の機会とは?」

講義を実施している:53校、臨床実習を実施している:16校、機会が無い:6校との結果であった。

2, 講義を実施/予定している大学に対して

①「講義の対象学年は?」

1年次:13校, 2年次:2校, 3年次:30校, 4

年次:24校, 5年次:6校, 6年次:5校であった。

②「講義を担当している講座は?」

スポーツ医学講座:5校, 整形外科科学講座:47校, リハビリテーション医学講座:7校, 内科系講座:1件, 外科系講座:1件, その他:11校であった。

③「実施/予定している講義内容は?」

表1の如く、最も多かったのは「スポーツ外傷・障害の診断・治療」で45校、次が「スポーツ医学概論」,「スポーツ外傷・障害のリハビリテーション」で各々25校であった。

3, 臨床実習を実施/予定している大学に対して

①「臨床実習の対象学年は?」

1年次:0校, 2年次:2校, 3年次:0校, 4年次:14校, 5年次:21校, 6年次:18校であった。

②「臨床実習を担当している講座は?」

スポーツ医学講座:2校, 整形外科科学講座:21

表1 A:2-③ 「実施/予定している講義内容は?」

スポーツ外傷・障害の診断・治療	45
スポーツ医学総論	25
スポーツ外傷・障害のリハビリテーション	25
スポーツ現場における救護	15
アンチ・ドーピング	10
メディカルチェック	9
内科疾患・生活習慣病への運動処方	7
熱中症	6
スポーツ生理学	6
トレーニング理論	6
スポーツ栄養学	5
パラスポーツ	4
スポーツバイオメカニクス	4
スポーツ心理学	3
その他	4

(校)(複数回答)

* 聖マリアンナ医科大学スポーツ医学講座

Corresponding author: 藤谷博人 (fujiya-1487@marianna-u.ac.jp)

校, リハビリテーション医学講座：5 校, 内科系講座：0 件, 外科系講座：0 件, その他：1 校であった。

③「実施/予定している講義内容は？」

表 2 の如く, 最も多かったのは「外来実習」で 20 校, そして「手術実習」16 校, 「病棟実習」13 校であった。

今回のアンケート結果をまとめると, スポーツ医学教育の機会がある医学部はおおよそ 90% 程

表 2 A:3-③「実施/予定している講義内容は？」

外来実習	20
手術実習	16
病棟実習	13
リハビリテーション実習	9
テーピング	3
スポーツ現場への実習	1
救急処置	1
運動負荷試験	1
その他	3

(校) (複数回答)

度と推測され, 教育内容としては, 「スポーツ外傷・障害」に関する講義, そしていわゆる「病院内」における臨床実習が多かった。またそれらの多くは, 「整形外科学講座」が担当していることが明らかとなった。

●B, 「聖マリアンナ医科大学」におけるスポーツ医学教育

聖マリアンナ医科大学では, 2002 年 4 月に「スポーツ医学講座」が新設された。本講座の機能は主に教育, 研究であり, それ以降, 医学生に対するスポーツ医学教育を担当, 統括している。

授業内容は表 3 の如くであるが, 整形外科領域に偏ること無く, 循環器内科, リハビリテーション, スポーツ心理, スポーツ栄養, 女性アスリート, テーピング等, カリキュラム開設当初から幅広い分野の授業(講義, 実習)を展開している。

担当教員は, スポーツ医学講座内のみならず, 学内各科の先生方の中でスポーツ医学に興味を持つ先生方に各々お願いし, また外部の専門家やア

表 3 B: 聖マリアンナ医科大学における「スポーツ医学」の授業内容 (2023 年度, 3 年生)

・スポーツ医学概論	・テーピング
・頭部外傷	・熱中症
・現場における救急処置	・女性とスポーツ
・オリンピックでの事故予防対策	・女性アスリートとは
・スポーツ心臓	・スポーツリハビリテーション
・スポーツにおける内科疾患	・スポーツにおける突然死
・スポーツ外傷	・スポーツコミュニケーション
・筋委縮 (サルコペニア, ロコモ, フレイル)	・スポーツと栄養
・スポーツ心理	・パラスポーツ
	・メディカルチェック



図 1 B: 聖マリアンナ医科大学における授業風景
(左: テーピング実習 (2023 年度), 右: 車いすバスケットボール体験実習 (2018 年度))

スリートの方にも毎年ご依頼しており、専門性の高い実践的な授業を提供している（図1）。

●今後の課題

医学部におけるスポーツ医学教育の課題としては、まず、スポーツ医学教育を統括するコア組織

1. 医学部におけるスポーツ医学教育の実際

（理想的には「スポーツ医学講座」）を設定することが必要で、そこを拠点として学内外の専門家と連携し、スポーツ医学に特徴的な幅広い分野の教育担当者を確保することが重要である。また今後は、病院の外、すなわちスポーツ現場での学生教育の機会も拡充すべきと思われる。